

整理しておくべき事項（メモ）
【前回のご意見を踏まえて】

川嶋太津夫

1 大学入試に求められる原則等

- 外部弁護士の協力を得て行われた事実関係の整理やこれまでの本検討会議における議論を踏まえ、大学入試に求められる原則や政策決定において留意すべき事柄を整理しておく必要がある。

(1) 政策決定過程の主な問題点

- ① 課題が常に先送りされ、実現可能性の確認がなされなかったこと
- ② 工程の柔軟な見直しが行われなかったこと
- ③ 共通テストと個別選抜との役割分担の議論が薄かったこと（→3（1））
- ④ 入試への過度の依存と過大な期待（入学後の教育との役割分担、高校教育への影響）

(2) 大学入試の意義と求められる原則

- ① 大学入学者選抜の意義
 - (ア) 大学教育を受けるために必要な能力の判定（入学後の教育との連動、3つのポリシーの明確化の重要性など）
 - (イ) 高校教育と大学教育を接続（社会人入試等については別に配慮）
 - (ウ) 大学の主体性の尊重（各大学が責任を持って選抜するのが基本。但し一定のルールは必要）
- ② 大学入試に求められる原則
 - (ア) 公正性・公平性の確保（試験実施業務における利益相反防止の原則を追加）
 - (イ) 能力の適切な判定（学力検査においては妥当性と識別力の確保）
 - (ウ) 高校教育への望ましい影響（入試への過大な期待は慎むべきだが、入試が高校教育に影響を与えている実態は認め、副作用を念頭に置きつつ、好影響を与えるような改善を行う必要。入試は選抜だけでなく、教育の一部という側面。）
 - (エ) 入学志願者の保護（2年前ルールの重要性など事前の情報提供等）
 - (オ) 地理的・経済的事情への配慮、障害者への合理的配慮等

(3) 大学入試政策における望ましい意思決定のあり方

(2) の意義・原則を踏まえることに加え、

- ① 議論の透明性の確保
- ② 専門家からの意見聴取
- ③ ステークホルダーの参画
- ④ データ・エビデンスの重視
- ⑤ 実現可能性や実施に要するコストの確認

2 大学入学者選抜を巡る諸課題の整理

- 英語4技能の評価や記述式問題の検討の前提として、また、ウィズコロナ・ポストコロナ時代の大学入試のあり方についても議論することを踏まえ、これまでに指摘されてきた諸課題とコロナ禍で顕在化した課題を整理して、議論する必要がある。

(1) 共通テストの課題

センター試験は大きな役割を果たしてきたが、下記のような課題が生じている。

- ① 大学教育に共通して(真に)必要な学力を問う科目構成の必要性(新教育課程への対応、③や⑤の観点も踏まえた精選)
- ② 多様な学力層、多様な活用方法への対応
- ③ 個別入試との役割分担が曖昧(例:大学教育に共通して(真に)必要な学力を問う科目構成、個別入試で評価すべきものとの峻別)
- ④ 活用が限定的(例:現行の試験実施時期では総合型選抜、学校推薦型選抜、留学生入試等への活用が困難。)
- ⑤ 大学入試センターの経営問題・体制問題(少子化の志願者減による財務状況の悪化、入試に関する研究開発体制の充実の必要性、関係者の理解と協力)

(2) 各大学における個別選抜の課題

個別選抜の改革は進展してきているが、下記のような課題が生じている。

- ① 一部の大学において大学教育に真に必要な学力の測定が不十分(一般選抜におけるアラカルトの弊害(例:数学、理科)、総合型・学校推薦型選抜における学力担保)
- ② 多面的な評価の取扱い(異なる選抜区分における比重の置き方、高校における調査書作成の負担)
- ③ 問題作成・実施運営をめぐる負担増大(過去問題の活用、大学間連携の必要性、専門人材の不足・育成の必要性)
- ④ 入学・転学、転部・転学科システムの硬直化(厳格な定員管理の仕組みのため、厳格な成績認定を避ける傾向、→入試(入学)時期の集中、学生の流動性低)※中央教育審議会大学分科会で検討
- ⑤ 経済格差・地域格差への配慮(例:オンライン入試、給費生入試、地域枠の設定等のG P、多面的評価における多様な経験の評価)
- ⑥ 障害者への合理的配慮の更なる推進(取組に大きな差がある)

(3) コロナ禍で顕在化した諸課題

- ① 個別入試に伴う越県移動リスク
- ② 共通テストのセーフティネットとしての役割の強化の必要性
- ③ 緊急事態において入試システム全体を調整する仕組みの強化の必要性

3 共通テストと個別選抜の役割分担、異なる選抜区分の意義と役割

- 今般の大学入試改革をめぐる議論は、一般選抜、とりわけ共通テスト改革に過度に集中していたきらいがある。このため、共通テストと個別選抜の役割分担や、異なる選抜区分の意義と役割について一定の整理を行う必要があるのではないか。
- 本検討会議の最大のミッションである令和6年度実施の大学入試及び大学入学共通テストにおける英語4技能や記述式問題のあり方の検討のためにも、前段の議論としてこうした整理が必要。

(1) 共通テストと個別選抜の役割分担と改善の方向性

- ① 共通テストと個別試験の関係（これまでの改革と残された課題）
- ② 諸外国の入試制度の動向（我が国の特徴：個別）学力検査への依存と受験生の負担、高校との関係、アドミッションオフィスの体制が不十分）時間はかかるが実情を踏まえつつ徐々に是正していくべき。
- ③ 大学入学共通テストの役割と課題
 - (ア) 制約：高い識別力、公平性・公正性、1次試験としての性格、入試の全体日程
 - (イ) 役割：基礎学力の測定、身近な場で受けられるセーフティネット（感染症対応）
 - (ウ) 確実性・安定性・信頼性を一層重視した試験にする方向で改革（例：科目の精選、高校会場拡大の可能性の検討等）
- ④ 個別選抜で測定すべき資質・能力
 - (ア) ③を踏まえ、各大学が AP に基づき責任を持って選抜を行うことを基本とした上で、共通テストで測りにくい資質・能力に重点を置く方向で改革（自前主義に拘泥せず、共通テストや外部検定試験で代用できる評価を活用し、個別での試験は真に必要な内容に精選）

※取りまとめに当たっては国公私を分けた議論も必要。

(2) 一般選抜と総合型・学校推薦型選抜のそれぞれの意義・課題と改善の方向性

- ① 一般選抜と比較した場合の総合型・学校推薦型選抜の意義・役割
 - (ア) 時間と労力を要するが、多面的・総合的評価に最も適した選抜形態
 - (イ) 多様なキャンパス実現の観点から多様な選抜の組み合わせが必要
 - (ウ) 感染症耐性の向上、チャンスの複数回化（一発勝負の是正）の必要性
- ② ①を踏まえ、より適切な総合型・学校推薦型の推進
 - (ア) 学力不問の是正（現状&優れた取組例、将来的な新たな方策の可能性の検討）
 - (イ) 一般選抜で多面的・総合的評価を求めている規定と実態との乖離の是正（一般選抜を無理に総合的にするのではなく、適切な総合型選抜を拡充）
 - (ウ) 地域・経済格差への配慮の必要性（多様な経験の評価）
 - (エ) オンライン面接等の活用による負担軽減・感染症耐性向上